

第7期第1回創発セミナー

『生化学に魅せられた50年－豚の肝臓から細胞の死』

今回は『生化学に魅せられた50年－豚の肝臓から細胞の死』と題して、アポトーシス（細胞死）研究を長年第一線で牽引し、国際的にも著名な大阪大学の長田先生にご登壇いただきます。沢山の方がご参加できますようオンライン形式での開催となります。どのように先生の研究が進められたかを知る絶好の機会ですので、是非ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

記

【日時】2023年10月3日(火) 16:00-17:30 ごろ/ 15:50 (受付開始)

【開催形式】Zoom オンライン (ウェビナー)

(終了時間は前後する可能性がございます)

【内容】

16:00～16:05：開演挨拶

16:05～17:10：講演『生化学に魅せられた50年－豚の肝臓から細胞の死』

大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任教授/  
筑波大学生命環境系 教授 長田 重一 氏



1972年、修士学生として東大医科研へ。豚肝臓から酵素の精製。研究の醍醐味を満喫する。5年後、組み替え技術を学ぶためスイスへ。インターフェロン(IFN)遺伝子の単離という幸運に遭遇。IFN研究が細胞を殺すタンパク質の発見へとつながった。サイエンスを堪能した50年を振り返り、細胞がどのように死ぬか紹介する。

略歴

- 昭和47年 東京大学理学部卒業
- 昭和52年 東京大学理学系大学院博士 (医科学研究所・上代淑人教授)
- 昭和52年 スイスチューリッヒ大学 (Charles Weissmann 教授) に留学
- 昭和57年 東京大学医科学研究所 助手
- 昭和62年 大阪バイオサイエンス研究所 研究部長
- 平成7年 大阪大学医学部 教授
- 平成19年 京都大学医学部 教授
- 平成27年 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任教授
- ・日本生化学会会長/日本分子生物学会理事長
- ・恩賜賞・学士院賞、慶應医学賞、文化功労者顕彰、Emil von Boehringer Prize (ドイツ) Robert Koch Prize (ドイツ)、Prix Lacassagne (フランス)、Debrecen Award (ハンガリー)
- ・日本学士院会員/チューリッヒ大学名誉博士/Foreign Associate, National Academy, USA

17:10～17:25：質疑応答

17:25～17:30：閉会挨拶

【参加費】無料

【お申込み：事前登録制】(\*定員500名に達し次第、締め切りとさせていただきます。)

以下のURLにアクセスしてお申し込みください。ご登録いただいたメールアドレスにZoom参加情報が送信されますので、ご確認ください。

お申し込みURL↓

[https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN\\_gCrz49MuTuqefyCd6\\_p3jw](https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_gCrz49MuTuqefyCd6_p3jw)

【お問い合わせ先】

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団 事務局 大竹・竹島・二宮

TEL: 045-459-6975, FAX: 045-459-6976, E-mail: event@ofsf.or.jp